

讃える！

一年度市政功労者表彰

「平成二年度市政功労者表彰式」が、十月三十一日市民文化会館で行われました。今年度の功労者は、自治、教育などの六部門から、長年にわたって市の発展に貢献された個人十二人と一団体が選ばれ、市長が表彰状と記念品を贈って各氏、団体の功績を讃えました。

自治功労

☆深見多喜三郎氏

(東台一丁目・64歳)



昭和四十七年から大館市公平委員会委員長、さらに昭和五十五年から大館市くらしの法律相談専門相談員として現在に至るまで、卓越した識見をもって問題解決などに尽力し、人権思想の普及と民生の安定に尽くされた。

教育功労

☆泉竹之助氏

(赤館町・72歳)



大館市スキークラブ会長、大館市体育協会顧問、秋田県スキー連盟理事として、長根山ジャンツェ(アストロジャンツェ)の改装新築に尽力するなど、長年にわたりスキーの普及発展と

☆高谷初江氏

(二ツ森・63歳)



後進の指導、地域スポーツ界のまとめ役として尽くされました。

産業功労

☆島内富一氏

(大町・68歳)

長年にわたり地域婦人会のリーダーとして社会教育に関与し、地域婦人学級の開設など公民館事業に積極的に協力。また多様な要職にあつて、婦人の地位向上と地域の福祉・生活文化の増進に尽くされました。

昭和四十年に大館商工会議所

☆菅原修一氏

(板子石・69歳)



昭和十六年建築大工として独立自営。以来、大館建設技能組合長、大館北鹿建設技能組合連合会会長、大館北鹿職業訓練協会理事などを長年にわたって務め、若手建設技能者の資質向上と育成に熱意を傾注し、市建設業界の発展向上に尽くされました。

議員に就任。以来、平成元年同会議所副会頭を辞任するまで、市商工業界の発展に尽力。また平成元年までの十年間、大館北秋雇用開発協会会長を務め、地域雇用の拡大、雇用条件の改善等に尽くされました。

市長メモ



No.42

正念場

日本の農業はどうなるか。米をめぐるガットのウルグアイ・ラウンドを米月に控え、正に正念場を迎えました。

米国の圧力でと受け止められていますが、米国には日本人に向く米はほとんどなかったし、残留農薬などを含め食品衛生上無防備の実情でした。

また、米が国際価格競争にさらされますと、日本の米は一日もたないことは明確です。そのとき、日本が米作りをやめてしまったら保水などの国土保全はできるでしょうか。

単なる農業の問題、経済の問題だけではなくあります。日本人の生命の問題が根底にあるのですから、もっとも国論としなければなりません。

にもかかわらず、外圧と単なる価格だけで結論づけさせてはなりません。暴挙は絶対に許してはなりません。自分だけではなく子孫のためにも。

島内富一氏